# あおもり民医連

2019年9月19日発行
【8面オールカラー】発行部数2,866部
第283号



発行元／青森県民主医療機関連合会
所在地／〒030-0822 青森市中央三丁目10番2号
TEL. 017（723）4076　FAX. 017（773）5326
URL http://aomin.jp/　e-mail info@aomin.jp


2019年度

## 青森民医連 職場づくり交流集会

### 日々の医療・介護活動から実践されている職場づくり・職場教育について交流

七月二十七日、花岡農村環境改善センターにて二〇一九年度 青森民医連 職場づくり交流集会を開催し、職員百十四人が参加しました。講師に全日本民医連 副会長 山本一視氏（福岡・千鳥橋病院院長）を招き「いますます大切な多職種協働 職場でどのようにみにつけるか」について講演していただきました。

講師 千鳥橋病院長
山本一視 氏

当日は猛暑の中、役職員を中心に百十四人の参加者のもと二〇一九年度職場づくり交流集会が開催されました。講師の全日本民医連 山本副会長の講演は、多職種協働を行う上で職種間の認識の違いを払拭しつつよりレベルの高い医療・介護活動を行うために事例を挙げて講演していただきました。山本先生は最後のまとめで「目標・方略・評価を意識して教育プログラムをつくること」の重要性を挙げています。参加者からは、「どんなに優れた人がいても、他職種での連携が取れなければ質の高い医療が提供できない。本当に医療の質を高めたいのであれば、全職員が共通認識を持つことが必要だと感じた」という感想がありました。

後半は七つの事業所より指定演題報告がありました。各事業所で実践されている職員教育の報告に加えて、県連教育委員会主催の研修でも行われたファシリテーションを実践している事業所の報告、全日本民医連「綱領と歴史を学ぶ」学習ブックレットの学習状況についての報告などが挙げられました。（健生黒石診療所事務長／波多野宏行）

## 参加者の感想をご紹介（原文のまま）

### ～山本先生の講演を聞いて～

- 自分のおかれている立場や役割をしっかりと把握し、その中で一人歩きをしていないか、周りのスタッフが自分に合わせすぎていないか注意しなければならないと思いました。
- 事業所内でも他職種協働に協力的な部署とそうでない部署があり、スタッフのストレス要員になっています。コンピテンシーの4つの領域を参考に実践してみたいと思います。
- 調整会議など、患者や家族も参加する会議では「このくらい分かるだろう」ではなく、きちんと伝わるように言葉を選んで確認しながら進めようと思いました。

### ～指定演題についての感想～

- ファシリテーション（ホワイトボードミーティング）の話を聞き、自分の職場でも行ってみたいと思いました。
- ホワイトボードミーティングを活用している職場が多いということはやはり有効なのだと感じました。自職場でも検討したいと思います。
- あけぼの薬局の取組みは、民医連綱領を実践している取組みで、お手本になります。
- 協立病院薬局の取組みがすばらしいと感じました。ファルマ浪岡の学習会方法もすばらしいですね。

会場一杯の参加者

第12回

# 大間原発反対現地集会

**二〇一九年七月十四日（日）に第十二回大間原発反対現地集会が開催され、全国から約三百名が参加しました。**

大間原発反対現地集会は二〇〇八年から毎年開催されており、大間原発敷地に隣接する民有地で行われています。あおもり健康企画からは職員九名とそのお子さん一名の十名が参加し、法人で過去最多の参加人数となりました。

会場の電源は山形県にあるソーラーパネルを販売する会社の協力により太陽光発電で賄われており、各団体の代表者が原発反対の声をマイクに乗せて訴えました。函館から参加された「大間原発訴訟の会」代表の竹田とし子さんは、二〇一八年三月に函館地裁が出した、建設差し止めも住民の損害賠償請求も認めないという判決を「中身の無い判決」として、札幌高裁に控訴したことを紹介しました。また、原発の危険性を指摘し続けた元京都大原子炉実験所の小林圭二先生が五月に八十歳で亡くなったことに触れ、竹田さん自身も生きている間に大間原発を止めることの決意を訴えました。集会後、旗や横断幕を掲げながら町内をデモ行進しました。打楽器のリズムに合わせて、原発の危険性や廃絶を訴えるシュプレヒコールを行いました。

大間原発を始めとした原子力・核燃施設を保有する青森県にとって、福島第一原発事故は決して他人事ではありません。今回の集会のような場で反対の声をあげることで、次の世代に原子力の危険性を持ち越さないよう引き続き運動に取り組んでいきたいです。（一般社団法人あおもり健康企画　総務部／玉熊律郎）

## 連載　事務幹部学校 参加報告について

# 民医連幹部になる「かまえ」と「覚悟」を持つ

**六月十九日から三日間、全日本民医連八階会議室にて第四十三期北海道・東北地協事務幹部学校が開催され、各地協より多数の事務職員が参加しました。全日本民医連の岸本事務局長をはじめとする素晴らしい講師陣による三日間の講習が行われました。**

全日本民医連の岸本事務局長より、今抱えている民医連の課題としての「人づくりについて」の講義に始まり、根岸副会長より「医療・介護の二つの柱」について理解を深める講義、岩須事務局次長より「民医連の歴史と綱領」をわかり易く教えて頂きました。また、岡山県労働者学習協会の長久氏より「ものの見方・考え方」についての講義をいただき、物事の捉え方を新たにする機会を頂きました。

「幹部」とは「総合的に組織を統括し、かつ民医連綱領と社会変革の立場に立つかまえと覚悟を持った人」ということ。身が引き締まります。

このような貴重な学習機会を頂き感謝するとともに、今後第四クールまでの期間に、自身の学習・研鑽を重ね、組織を牽引していけるような人材になります。（ファルマ弘前薬局／水木孝之）

# 2019年度 薬局活動交流集会 開催

**7月6日(土)、「2019年度薬局活動交流集会」が開催され、青森県民医連の病院薬局・保険調剤薬局の薬剤師および事務職員が総勢73名参加しました。**

会場の様子

今年度の集会では、講師として昭和薬科大学　教授　長南謙一氏を迎え『「医薬品評価と薬害防止」―民医連薬剤師に望むこと』と題して講演を行っていただき、医薬品評価の目的と方法、HPVワクチン(子宮頸がんワクチン)薬害訴訟の経過について学び、薬剤師として薬害防止のために何ができるか、また民医連の職員として被害者を支援することの大切さについて考える内容となりました。

その次に「活動交流」を行い、薬局4法人の取り組みや今後の課題を共有し、ますます民医連の薬局法人間の連携が必要であると意思統一することができました。活動交流集会後は、毎年恒例の「新入職薬剤師・薬局事務歓迎会」を開催し、5名の新入職薬剤師と1名の薬局事務を迎え、大いに交流することが出来ました。

毎年開催している薬局活動交流集会は、県連内の薬剤師集団が集結し交流を深めるための大変貴重な場となっていることをあらためて確認することが出来ました。今集会で学習した内容や意見交流した内容を生かし、今後の活動をますます活発なものにしていきます。

(青森県民医連事務局・薬剤師委員会／山口理香子)

---

青森県青森県民医連第三十二回

# 看護卒後研修症例発表会

**七月七日(日)青森県民医連第三十二回看護卒後研修症例発表会を開催し、県連の各事業所から発表者二十三名、講評者十四名、看護学生を含め百十四名が参加しました。宮城厚生協会坂総合病院在宅診療科の佐藤美希先生を講師に迎え、「地域で生き、地域で看取る～最後まで人権を守る～」をテーマに講演をいただきました。**

卒後三年目看護師が四つの分散会で発表しました。認知症患者の自宅への退院や精神疾患患者のセルフケアの自立に向けた支援、意思表示が困難な患者の安楽な体位、身体拘束の解除に向けた尊厳や基本的人権を守る視点の症例等、いずれも患者にとって最善となるよう多職種で連携した症例でした。民医連看護の三つの視点「患者の立場に立ち」「患者の要求から出発し」「患者とともにたたかう」と、四つの優点「統合性と連続性」「無差別性」「民主性」「人権を守る・運動」を基本にした発表会でした。参加者からは他事業所の発表を通し、互いに学び合うことができたと感想がありました。また卒後五年目看護師がこれまでの経験を活かし講評しました。

佐藤先生からは事例を通し「地域に在宅難民や見取り難民を一人もつくらない医療活動」、「医療と介護が手を繋ぎ最後まで人権を守り、自分らしく生きるための在宅療養を支えること」等の講演をいただきました。まさに民医連綱領に沿った医療活動を学び、今後の私達の実践に繋げていきたいと思います。(県連看護研修小委員会／成田涼雅)

---

# 県連事務局人事往来

この度6月より弘前事務所へ出向となりました宮腰和実です。5月まで組織部におり、組合員さん達と一緒に生協活動をがんばってきました。今回新たな環境となり不安な部分もありますが、心機一転がんばります。よろしくお願いします。

着任 宮腰(みやこし) 和実(いずみ)

(津軽保健生協組織部⇒青森民医連弘前事務所)

2019

# 青森民医連平和活動交流集会

## 原水爆禁止世界大会の代表団の壮行会も行われました。

**七月二十五日浪岡中央公民館にて開催し、職員百二十一名が参加しました。講師には青森県生協連常務理事・鎌田敦子氏を招き、「ビバクシャ国際署名の生命力と二〇二〇年NPT再検討会議に向けて」について話しました。**

講演では①核兵器に関する歴史②核兵器をめぐる世界情勢『核兵器不拡散条約（NPT）と核兵器禁止条約③ヒバクシャ国際署名の生命力と県連絡会の活動④私たち一人ひとりにできることは何か、についてお話いただきました。交流集会後半では、二〇一九年原水禁世界大会in長崎の壮行会が行われました。賑々しく各職場から千羽鶴などが寄せられ、参加者全員で改めて平和への誓いを確認し合った交流集会になりました。

講師　鎌田敦子氏

世界の核兵器は一九八五年を分岐点に減少傾向ですが、小型化と多弾頭化そして命中率の精度が高まり、核兵器不拡散（NPT）条約の役割が重要視されています。この条約の問題点は米、ロ、英、仏、中の五ヶ国を核兵器国として容認した上での核兵器不拡散であると言う点にあります。そして今日のNPT再検討会議へと発展しました。NPT再検討会議は、二〇一〇年には最終文書を採択しましたが、二〇一五年の核兵器国と非核兵器国の核軍縮をめぐる対立や中東問題、核兵器の非人道等で多く課題を残しました。

原水禁世界大会に参加する青森県代表団（前列）

二〇一七年七月に核兵器の全廃と根絶を目的として非核兵器国を中心に百二十一ヶ国が国連で核兵器の開発、実験、製造、備蓄、委譲、使用及び威嚇としての使用禁止並びにその廃絶に関する条約に賛成し、この条約前文にはヒバクシャと言う言葉がそのまま使われ、被爆者の苦しみと被災に触れています。現在この条約の署名国は九十ヶ国、批准した国は二十三ヶ国に及びましたが、日本政府は署名・批准を拒否しています。私達は核兵器の無い世界をめざす運動に関心を持ち続ける事が大切です。

（青森民医連／津川文彦）

## 原水爆禁止二〇一九世界大会について

### ～核兵器とこれからの日本の立ち位置～

津軽保健生活協同組合　総務部　天内　良

八月六日～九日の期間、長崎で開催された原水爆禁止二〇一九年世界大会に参加してきました。長崎の市長の挨拶や各国の政府代表挨拶、ヒバクシャ国際署名の状況、全国からつながれた平和行進の活動が紹介されました。

七日の世界大会前には平和公園や原爆資料館、そして浦上天主堂等をガイドの方の説明を聞きながら巡りましたが、原爆の凄まじい威力を物語る建物の跡地を見た時には言葉が出ませんでした。長崎の原爆では七万以上の尊い命が奪われました。しかし、原爆の脅威は七十四年たった今もなお放射線による後遺障害に苦しみ続けている人々がいることです。

核兵器は人類にとってもっとも必要のない兵器です。アメリカの核の傘に隠れているのではなく、核兵器のない世界を創るためにも原水爆禁止世界大会をもっと世界全体に発信していく意義はとても重要であると学びました。

## 原水爆世界大会へ行ってきました

あおもり協立病院　庶務課　本間杏菜

会場では全国、また海外から代表者が集まり、一体となって平和を訴えました。

世界大会期間中、強く印象に残ったのが、被爆者家族の実体験でした。お話してくださったご本人の母親と兄（当時赤ちゃん）は原爆投下時刻に駅舎の外にいました。父親だけ駅舎の中にいました。そして投下された瞬間、母親は空が光ったことを確認できたそうですが、火傷しているとその時はまだ感じていなかったそうです。

そしてすぐに母親の肌はドロドロに溶け、当時赤ちゃんだった兄はパンパンに腫れ、炭の塊のような姿になってしまったそうです。私はこの話を聞いてショックを受け、二度とこのような事はあってはならないと強く感じました。

今後思うだけでなく、今自分にしかできない行動をしていこうと思いました。例えば署名用紙に積極的に記入するとか、患者様のご家族と接する事が多いので、お話した時に署名をお願いするなどです。自分も民医連の一員として、これからも平和活動を続けていきたいと思います。

# 事務職員基礎研修

**七月二十六日（金）県民福祉プラザにて事務委員会主催「事務職員基礎研修」を開催しました。参加者は入職一年目から二年目の事務職員で十四名でした。**

第一講座は「高齢者疑似体験」で、疑似キットを装着し歩行、トイレの使用、自動販売機の利用など高齢の患者様や利用者様の気持ちになって体験しました。第二講座では「ビジネスマナー講座」を行い、普段の自分の接遇を振り返る機会となりました。第三講座では「民医連の事務職員像とは」のテーマで、綱領についてや事務職員の三つの役割を考える講義内容でそれをもとに、事務職員像をグループで話し合いました。第四講座では多くの職場を経験し現在診療所の事務長となった先輩職員を講師にむかえ、自分の経験や想いを話してもらい、参加者が自分の将来像や目標について考える内容となりました。

高齢者疑似体験の様子

参加者からは「高齢者の気持ちを体験することによってよくわかったので、業務の中で活かしていきたい」「何気なく使っている言葉遣いやマナーが間違っていることに気づかされた」「民医連の事務職員像とは何かを見つめ直す機会となった」など大変好評でした。

（株式会社ファルマ　本部／阿部千佳子）

ビジネスマナー講座の様子

## 2019年度 青森県民医連入職初期・3年目研修

# SDHの視点 ～考える事を止めない医療と介護～

七月十二日、二十四日の二日間、浪岡中央公民館にて二〇一九年度青森県民医連入職初期・三年目研修を開催し、職員六十六名が参加しました。講師には青森県生活と健康を守る会事務局長の神江美氏を招き、県内の事例を報告していただき、その後に各職場の困難事例をSDHの視点で検討、憲法学習をしました。

講師 神 江美 氏

神江美氏の講義から、行政が動いて制度が変わるときには先に犠牲になってしまった方がいることや、行動を起こして事前に犠牲になる方を救おうと行政に働きかけている方々がいることを知り、自分がそういう先人の方々の積み重ねがあって恵まれた環境にいることが理解できました。

SDHの視点を通してのグループワークでは、普段交流のない多職種が集まっていたことで、さまざまな視点から事例を検討でき、視野の広がりを得ることで、ただただ同じような支援をしていればいいのではなく、普段の業務でも一人一人の患者様に対しSDHの視点で考える大切さが分かりました。

憲法学習では「戦争はしたくないが攻められたらどうするのかと不安になった」という意見もあり、講義や周囲の意見を鵜呑みにするのではなく、きちんと自分で問題点について考えることができる機会を作れたことを実感できました。全体を通して、医療介護従事者として患者様が無差別平等の医療介護を受けられるように、今後もSDHの理解を深める事や、様々な人権保護活動に可能な限り参加して行動すること、考え続けることが大切だと感じました。（八戸生協診療所　主任補佐／佐々木啓太）

# ファルマ弘前薬局健康まつり

## 薬局が取り組む地域に根ざした活動

**2019年8月1日、ファルマ弘前薬局にて健康まつりを開催し、地域住民の方々、利用者様が多数ご参加いただけました。その活動について報告を述べさせていただきます。**

ファルマ弘前薬局では、昨年から8月1日に健康まつりを開催しています。余談ではありますが、この健康まつりとは別に毎月第4月曜の15：30から健康教室も開催しており、様々なテーマで健康情報を発信し地域住民の健康をサポートする一助を担っております。

話を戻します。健康まつりは午前、午後の2部構成で内容は15分～ 30分程度の講義や健康体操に加え、低GI食品の試食、骨密度測定、血圧測定、動脈硬化のチェック、体組成測定、認知症チェック等の健康チェックコーナーも設置しておりました。

講義の様子

講義の具体的内容として今回は「気になるむくみ」、「健康食品とサプリメント」、「健康と笑顔　薬でサポート（薬局紹介、薬剤師の仕事内容」、「ジェネリックとは？」、「大切な人が認知症になったら」とテーマは多岐に渡りました。一般の方にもわかりやすく、なおかつ季節に合わせた内容、タイムリーな情報、興味をもってもらえるような内容でまとめました。また今回は当薬局の紹介、薬剤師の仕事を撮影し編集したものをムービーで流したりと新しい取り組みを行いました。参加された方々から好評をいただきました。

みなさんで健康体操！

今後も毎月の健康教室含め、地域に根ざした取り組みを邁進してまいります。（ファルマ弘前薬局／葛西孔明）

30年目のT6ENC（東北6県エッグナースセミナー）

# 青森県連の看護学生大活躍！

**8月10日～11日に宮城県鳴子温泉で東北6県の看護学生52名含む93名が集合しエッグナースセミナーが「Smile（スマイル）～思いやり～」をテーマに開催されました。**

今年の青森県連は他県と比べ、看護学生数が一番多く、各企画で班長・発表・交流会司会進行と大活躍。

研修は初日が「在宅看護」訪問看護ステーション所長永井知枝さんから、震災当時のお話や、民医連ならではの事例紹介を交えた講義に、学生からは「その人の生い立ちや生活背景に思いを寄せる大切さを学びました」という感想が聞かれました。

車座で青森県連 座談会 10畳に22人！

安楽・安心のオムツ使用法演習

2日目は皮膚排泄ケア認定看護師　野村主弥さんによる講義と、オムツ使用を職員・学生共に実践し合う演習をしました。夕食交流会では県境を超えてゲーム等で大盛り上がり。夜は青森県連参加者が10畳部屋に集合し、車座になっての座談会を急遽開催したりと看護学生、職員共に充実した2日間でした。

（看護学生小委員会　委員長／成田富子）

# 夏の 高校生1日医師体験会 開催!!

**青森民医連医師医学生課では各病院・診療所の協力を頂いて高校生1日医師体験会を開催し、今夏は10回開催し40名（弘前11名・青森18名・八戸11名）を受け入れました。**

体験プログラムは病院見学、訪問診療同行、心臓カテーテル見学、気管支挿管模擬体験など各病院・診療所の医療活動をもとに組みました。

「医師には医療知識だけでなく、細かい気配りや洞察力が必要であることを実感しました」「患者さんとその家族全員が医師を信頼していたその姿を見てかっこいいと思いました」「他の医療従事者とチームとして行動し、患者さんをサポートすることがとても大事だと感じました」など感想が寄せられました。

参加者の過半数が三年生で、来春、受験を控えています。将来の新歓成功に向け、医学部入学前から継続的なつながり構築、後継者確保を目指して取り組んでいきます。（青森民医連／立花典明）

津軽保健生活協同組合

# 第三十三回 西北健康まつり開催

**七月二十一日(日曜日)ハーモニー未来館(つがる市柏)にて第三十三回西北健康まつりが開催されました。**

記念講演は健生病院副院長の相馬裕医師による現在の健生病院整形外科治療について詳しく語って頂きました。今年は医福連で掲げている「多くのひとびとの参加で、地域に協同の〝わ〟をひろげます。」のスローガンに基づき高校生とのふれあい企画を取り入れました。五所川原農林高等学校「カフェ耕心庵」からはハンドマッサージ、五所川原第一高等学校「三味線部」からは全国大会団体の部を制した見事な三味線演奏がありました。午後の部は恒例の支部選抜演芸大会で今年は二十一組総勢四十二名の組合員さんが日頃の成果を披露しました。

今年の来場者は約五百名でここ数年減少傾向になっています。西北五地域では健生五所川原診療所が唯一の法人事業所であり民医連の事業所です。健康寿命を意識した組合員活動を展開して行くため組織担当者と地域組合員と職員が切磋琢磨して奮闘している今日この頃です。

（健生五所川原診療所　事務長／奥瀬昭彦）

# 青森県社保協総会

会場の様子

**青森県社会保障推進協議会は、7月27日に総会と学習会を開催し、84名が参加しました。　学習会では立命館大学産業社会学部教授の唐鎌直義氏が「最低保障機能が脆弱な日本の社会保障　―その現状と課題―」と題して講演しました。**

講演の中で唐鎌教授は、社会保障給付費の分野別構成を日本以外の主要五ヶ国を比較してみると最低保障分野、労働政策すべてにおいて日本の社会保障制度は稼働能力者の貧困への対応があまりにも微弱であると同時に高齢者への対応も不十分である事を強調していました。日本が社会保障に格差を持ち込んでも平然としていられるのは権威主義への傾倒があるためではないか。国民の運動の強化はもちろん重要ではあるが「他人よりも自分の方が偉い」と思うここをどう変えるかが実は非常に大事なことであると強調した講演でした。

講師　唐鎌直義 氏

総会では、五名の代議員より日頃の活動が報告され、木村儀弘事務局長より総括及び方針案・次期役員体制等が提起、採択。最後に本総会の特別決議が読み上げられ、いのちと暮らし、平和と民主主義にかかわる学習や宣伝に取り組み国や自治体を変える活動を続ける事を確認しました。

（県社保協事務局次長／津川文彦）

## 青森県医療事業協同組合 第5回 医療講演会開催

### 民医連綱領実践に学びあらためて日本国憲法について学びました。

**七月六日（土）青森市のラ・プラス青森で医療講演会を開催し、薬品メーカー四十五社のMR・MSが参加しました。**

事業協では取引のある製薬会社の方々に民医連医療活動を理解してもらう事を目的に医療講演会を二～三年おきに開催しております。当日、県内はもとより札幌、仙台、東京など県外から総勢八十八名が参加しました。砂川事業協理事長の挨拶に始まり、木村県連事務局次長より民医連・医療福祉連合会の紹介、次に健生病院サポートセンターの堀川恵副センター長から経済的理由による手遅れ死亡事例の紹介がありました。最後に田代県連会長より「民医連綱領と憲法」について講演を行い、参加者は「民医連が全国展開されており、特に診療所の多さには驚いた。」「手遅れで死亡した二症例には考えさせられた。」「日本国憲法についての本格的講演を初めて聞けて良かった。」と好評でした。製薬会社の方々は初めて聞く民医連綱領に感心し、綱領実践に特に関わりある九条、十二条、十三条、二十五条についての理解を深めました。今後も、参加した業者の青森民医連への協力に期待が持てる講演会となりました。

（青森県医療事業協同組合／小柳睦男）

砂川事業協理事長

講師　田代 実会長

# 全日本民医連第43期評議員会報告

委員会の様子

## 第３回評議員会に参加して

**8月17日～18日、第43期第3回評議員会が開催されました。**

評議員会方針のポイントを３点あげます。一つは今期最大の運動課題とした「憲法をまもる」です。７月の参院選の結果、市民と野党の共闘が奮闘し改憲勢力の議席が３分の２を割りました。国民の思いが結実した結果で今後の運動も重要です。二つは、民医連は１０年ごとに振り返りと展望を示してきました。現綱領になって１０年の節目でもあり、医療介護活動・経営・育成・運動の４つの視点での振り返りを呼びかけました。三つは第３章の重点課題で、とりわけ「２つの柱」の医療介護活動と医師問題を強調しました。また評議員会では全国の評議員からの発言で方針を深めることができました。方針と合わせて、９月２日の民医連新聞を是非ご覧ください。同号の岡崎先生の「地域に求められる民医連とは」も面白いですよ。（写真：民医連新聞提供）

発言する田代会長

（青森民医連事務局長／佐藤真人）

あおもり民医連 283 号 発行日 2019.9.19 発行部数 2,866 枚 AOMORI MIN-IREN

# うちのメゴっこ vol.53

## 第３８回 八戸うみねこマラソン 全国大会 に家族で参加

5月12日、八戸うみねこマラソンに、家族で初めて参加しました。おじいちゃんが孫と一緒に走りたいと希望して家族での参加。当日は少し風が冷たいくらいで天気も良く、絶好のマラソン日和でした。

5歳児（ぽっちゃりさん）が走れるかなあと心配してましたが、走ったり歩いたり楽しく完走できました。親子で参加でき、祖父は大満足。いい思い出ができました。5歳の我が子、頑張りました。えらいぞ。また来年頑張ります。

（住宅型有料老人ホーム「生協たむかいの家」　施設長／八森真美）

## 9月 2019年9月 第17回理事会報告

- >> 全日本民医連 第43期第19回理事会報告
- >> 決議事項
  - 地協薬学生夏のつどい参加費用について
  - 第3回県連介護福祉士研修交流会（第2報）
- >> 会務報告/各委員会・医師委員会報告
  - 全日本・地協各部門会議・研修
  - 医師委員会報告/既卒医師対策報告
- >> 協議事項
  - 県連リハビリ政策（案）
  - 民医連の綱領と歴史を学ぶ大運動

## 主な 今後のSCHEDULE

| | |
|---|---|
| 9/20-21 | 県連1年目研修 |
| 9/21 | 2019年度医系合同奨学生会議（青森） |
| 9/26 | 県連中期研修 |
| 9/27 | 県連管理補佐研修 |
| 9/28-29 | 地協2019薬学生夏のつどい |
| 10/6 | 県連介護福祉研修交流集会 |
| 10/10 | 県連中期研修 |
| 10/10-12 | 全日本学運交（長野） |
| 10/18-19 | 県連看護管理者研修 |

あなたと民医連をつなぐ月刊誌
いつでも元気 MIN-IREN
2019 9月号 380円 好評発売中
巻頭エッセイ／TOSHI-LOWさん
けんこう教室 よりよい眠りのために
地域を見守る友の会 千葉
映画 荻野吟子の生涯
まちのチカラ 熊本県小国町
食と健康 災害に備える時短レシピ

発行＝㈱保健医療研究所 〒113-0034 東京都文京区湯島2-4-4 平和と労働センター8階 電話 03(5842)5656（代表） FAX 03(5842)5657

## 私の三つ星★★★

漫　画

### 『ジョジョの奇妙な冒険』

著：荒木飛呂彦

ジョースター家とディオ・ブランドーとの血の因縁を描く『ジョジョの奇妙な冒険』は、私が小学生時代に連載が開始され、今なお続いている漫画です。現在は第８部が連載されていますが、私のお気に入りはジョルノ・ジョバァーナ（名と姓の頭をとってジョジョ）が主人公の第５部です。ストーリーはイタリアを舞台に、正しいことをするためにギャング組織の幹部にのし上がろうとするが、同じ組織に命を狙われ続けるといった展開です。幽波紋（スタンド）という能力を発現させた闘いがまぁスゴイ。時間を消し去り、その中を自分だけが動け、他の人間はその時間すら体験しない…攻撃してくる相手の動作や意思の力をゼロに戻す…何度読んでも理解不能で、一周して矛盾すら覚えさせられるのもまたご愛嬌です。

「無駄！無駄！無駄！」と自分の概念を粉砕してくれる素敵なエンタメ作品です。

（ヘルパーステーションはるかぜ　所長／村瀬達也）